

## ワーキンググループにおける論点整理（素案）

## 【問題意識】

- ・科学技術イノベーションの中核を担う大学等の運営基盤を強化していくためには、国からの運営費交付金等の公的資金のみならず、民間資金等による資金の多様化の必要性が高まっている。このため、国としても大学等によるこのような外部資金獲得に向けた取組を促進することが重要である。
- ・また、科学技術イノベーションを促進するには、それを支える人材への投資が進み、研究人材が流動化することが不可欠である。企業が求める人材や企業人材の大学等における育成のための仕組み、研究開発の支援人材の育成、産学や国内外の人材の流動化の促進や産学官の多様な場での若手研究者の活躍促進などが重要である。

## 【第1回の議論における主な論点】

○民間資金とのマッチングによって、資金面も含め産業界と連携した学位プログラムを創設することが有益ではないか。

○産学連携による学位プログラムの創設を実現又は促進するためにはどのような仕組みとすればよいか。

※「学位プログラム」とは、大学等において、学生に短期大学士・学士・修士・博士・専門職学位といった学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラムのこと。（中央教育審議会大学分科会（第74回）配付資料より）

## ＜産学連携による学位プログラムの創設ニーズ＞

- ・優秀な新卒人材を確保できる保証がある場合、企業の協力は得られやすい。（現状のリーディング大学院の取組においても、学生の就業意欲が高く、実行力、発進力、交渉力に優れていることを企業担当者が高く評価している。）
- ・社会人学生への支援の充実により、企業研究者・技術者の育成ニーズも掘り起こせる。
- ・一方で、産業界としては、投資対象としてのリターンが見えにくい。また、大学に産業界の求める新たな分野の教員がいない、学科創設のスピード感が不足している、といった懸念もあり、その解消が必要。

### ＜創設に際しての課題＞

- ・新たな専攻の立ち上げやカリキュラム作成は、作業量や調整（学内での合意形成）を考慮すると、既存専攻内に設置したらどうか。
- ・寄附講座（3,000万円/年）は、一企業では継続した参入が難しい。また、大学運営のための資金提供は、民間企業から理解が得られにくい。人材育成と共同研究をセットで実施したらどうか。（直接経費は共同研究、間接経費は人材育成）
- ・教育についてはステージゲートを導入した10年程度の長い支援が必要。

### ＜産業界として大学に求める人材育成＞

- ・多様な技術人材の育成。基礎基盤的な技術力の担保。
- ・産業基盤として必須の学問領域の維持、創設と拡大。
- ・カリキュラムや成績、スキルの透明性と客観性の確保。

### ＜学位プログラムに望ましい分野＞

- ・新しい分野、融合領域。
- ・産業基盤として必須の学問領域。
- ・絶滅危惧学科（化学工学、電気工学、土木工学、冶金・金属工学、原子力工学、繊維工学など）。

### ＜学位プログラムの創設を実現または促進するための仕組み＞

- ・企業人へのインセンティブが必要。
- ・大学組織としてのコミットが必要。（企業のニーズを踏まえた学位プログラムの企画。品質の保証。）
- ・執行部の意識と教員の意識との間のギャップの解消が必要。
- ・税法上の優遇策を考えられないか。
- ・共同研究の直接経費から、学生の人件費を支出できないか。